

## 「イエスさまの見たもの」 ～あなたは先【夢】を見えていますか？～

ヨハネ 19:26～30

聖書（マタイ6：26～34）には、「明日のための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」と書かれています。雀・野の花のたとえ話が書かれています。雀は種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。野の花は働きもせず紡ぎもしません。先を心配したからと言って自分で自分のいのちを少しでも延ばすことは出来ないのです。雀はさえずり、野の花は上を向いて神さまを見つめながら、それぞれのその日その日の労苦を精一杯行っているので天の父が養ってくれるのです。私たちはどうでしょう？その日その日の労苦が行われ、私たちが将来に夢見ている素晴らしいことが現実になった時、神さまに「ありがとう」と言える人生を送っているのでしょうか？イエスさまは私たちの罪や悲しみを私たちに代わって背負ってくださり十字架にかかりました。そのイエスさまが、私たちが喜びも感謝もなく「当たり前・普通」と何も感じなく、感じるものは悲しみばかりの毎日を送っている姿を見られたらどう思われるのでしょうか？今回は、イエスさまが十字架にかかられた時どのような目線で見られていたのか考えたいと思います（ヨハネ19：26～30）。イエスさまは十字架の上から母マリアに「弟子が息子」だと言い、弟子に「その女の方が母」だと言いました。全ての人の痛み・苦しみを背負いながらも十字架の上から「あなたたちの苦しみ・悲しみは知っている。だからあなたたちに新しい家族を与える」と言われたこの箇所が神さまが最初に私たちに与えてくださった教会です。この後、イエスさまは全てのことが完了したのを知って「わたしは渇く」と言われました。私たちが「渇く」と聞いて思い起こすものは、のどが若く・お金が無い・地位や名誉が無い・人から愛されたい・良く思われたいなどですが、これは渇きではなくて自分がどれだけ幸せに暮らせるかという欲です。しかし、イエスさまが十字架上で求めたもの・「渇く」と言ったものは、私たちが気づいていない渇きです。私たちは富や名声・お金で満たされても心の空洞・渇きをそれらで満たすことは出来ません。イエスさまは、私たちの心の中に本当は渇きがあるにもかかわらず渇いていることに気づけなかった…そのことを思って十字架上で「渇く」と言われたのです。渇くと言うことがどんなことなのか知っていますか？そして自分が渇いていることに気づいていますか？この渇きに気づき、この渇きを満たさないと虚しさが残ります。虚しさを感じていませんか？逆に虚しさがあるのであれば渇いていると言うことです。のどが渇いていないと思っている牛を水辺に無理矢理引っ張っていくことが出来ても水を飲ませることは出来ません。同じように私たちが渇いていることに気づかなければ、神さまの前に満たされたいと出ていくことも出来ないし、神さまがどれだけ私たちが満たそうと働きかけてくださってもそれを受け取ることは出来ないし、先【夢】を見ることも出来ません。イエスさまが十字架の上で苦しみを受けながらも見たものは、ヨハネと母マリアから始めの教会が成り立ち、その教会で多くの人々が心の渇きを取り除かれ、喜びと恵みの中で人生を歩むことができるようになることでした。イエスさまの母マリアは実の息子を目の前で失いますが「教会の母となる責任」を与えられました。イエスさまは「実の母としての欲」に答えられるのではなく「本当の心の渇き」を満たされました。また、復活されたイエスさまは弟子たちの前に姿をあらわされました（ヨハネ21：1～11）。イエスさまはここで弟子たちに魚が捕れることを教えたかったのではありません。どんなに苦しい状況・自分たちにはどうすることも出来ない状況に追い込まれても神さまはあなたたちに魚が捕れる方法を教え、そしてそれを信じて行動すれば必ず魚は捕れるんだ！と教えてくださいました。しかも信じて行えばガリラヤ湖にいたであろう153種の魚が全て頑丈でない網が破れもせずに捕れたのです。信じて行えば人間には不可能に思えることも起こるのです。神さまは湖に魚が153種いるのも網が頑丈でないことも全て知った上で計画されていたのです。私たちにしても同じです。私たちに確かに何かをする能力も業も無いかも知れません。努力しても自分の力ではその先【夢】がうまくいかは分かりません。しかしイエスさまの目線は、この出来ない私たちの姿を見て「出来る！」と信じているのです。イエスさまは私たちの将来を見えています。イエスさまの言うことに従った弟子たちは、それをやって初めて「自分たちには出来ないことを出来るようにしてくれる方がいつも私たちと一緒にいてくださる」と気づいたのです。そして気づいたら素直に神さまの元へ行って行き求めました。私たちはどうでしょうか？私たちに弱さがあります。今まで渇き・虚しさを隠して強がってきたところがあります。しかし、イエスさまはこんな私たちの先【夢】の姿をみてくださっています。私たちが自分たちの人生の先【夢】には素晴らしいものがあると知らなければいけません。でなければ、神さまがどれだけ私たちが満たそうとしてみてくださいもそれを受け取ることが出来ません。ですから、①あなたは渇いていることを知っていますか？目の前の欲を満たす安易に手に入れられるものに目を向けて心が満たされず虚しさが心に残っていませんか？心の渇きとは虚しさです。人は何かを得るために行動する生き物です。だから、どんな人でも心に渇きがあります。渇き・虚しさがどんなものなのかまでは知らなくてもいいです。ただ「私たちは渇いている」ことを知りましょう。自分の弱さに気づきましょう。自分を飾ったりカモフラージュすること・失敗して自分を卑下して落ち込むことを止めましょう。でなければ受け取れるはずのものが受け取れません。そして②渇きから将来を見ましょう。将来とは「未知のこと・来るべきものが必ず来ること」です。私たちが失敗した時、神さまが私たちに伝えたいことは落ち込むこと・諦めることではなく「神さまの前に出てきてお祈りして先のことを計画すること」です。嫌なことばかり覚えて嫌なことの種ばかり収穫していたのでは将来も嫌なものになります。確かに感謝できないこと・嫌だなと思うことはあります。しかしそのように思ったことを神さまに「神さま、これから私に何をせよと言われているのですか？」と将来を信じて祈ることが出来れば神さまが与えてくださった得られるべきものを必ず得ることが出来ます。私たちの人生を振り返れば人のせいにしてたり失敗したりしてきたことがたくさんあります。イエスさまはそんな私たちの姿を見て「ダメだ」と見捨てたりしません。私たちの痛みが分かるからこの教会に導いて「これからは違う人生を歩めよ」と恵みを与えてくれているのです。だから失敗（渇き）から将来を見ていきましょう。だから③小さいことにも完了の姿（夢）を見ましょう。日本庭園を思い浮かべてください。どこに石を置いて・砂利を置いて・川を流して…小さいもの一つ一つがどこに置かれるとどういう姿になるのか完成された姿を全て考えて置いています。私たちの人生にはこのような考えはありますか？確かに将来のことは大きくて見えにくいかも知れません。しかし小さなことは分かります。今やっていることは何のため？なぜ？どうして？…がっかりするようなことでも、将来の素晴らしい完成された姿を思って行動しているのでしょうか？完成された姿（夢）を見て行動しましょう。だから、私たちがしなければいけないことは、今日の姿しか見られていなかったのなら将来（夢）の姿を見て行きましょう。これが出来れば自分の行動にやる気と自信が出てきます。聖書には「あなたのための主の計画は災いではなくて平安を与えるものである」（エレミヤ29：11）に書かれています。この計画を神さまは求める人には必ず与えられます。私たちが自分の後に続く人たちに残すものを残して行かなくてははいけません。そのために心の中の虚しさ・渇きを早く取り除きましょう。（要約者：行司佳世）